

## 御影堂の建築

御影堂は、平安時代（794–1185）の貴族のために建てられた家に似ている。縁側には高欄が付いており、檜皮葺屋根になっている。御影堂の建物は当初、住居として使用されていたため、建築的に東寺の主要な建物とは大きく異なっている。全体的に、御影堂は優雅さと静けさを感じさせる。

御影堂は-前堂、中門、後堂の3つの建物で構成されている。最初の御影堂は1379年の火事で焼失した。御影堂で最も大きな部分である前堂は1380年に再建され、中門と後堂の建設は1390年に完了した。これらの居住用の建物は東寺の中でも最も古いものの部類に入る。御影堂は1958年に国宝に指定された。